

**研究成果速報 No.268 号「ハウス利用によるしいたけ早期ほだ化法の調査（ ）  
- 洋野町生産者の一事例・仮伏せ時の積算温度 - 」修正のお知らせ**

平成 21 年 3 月 24 日に公表した研究成果速報 No.268 号について、一部（「4 考察」）に誤解を招く表現がありましたので、4 月 21 日より適切な文章に修正しました。

関係者の皆様に御迷惑をおかけいたしましたこととお詫び申し上げますとともに、今後は、これまで以上に適切で正確な情報発信に努めて参ります。

**（ 修正版 No.268 号 次頁 ）**

## ハウス利用によるしいたけ早期ほだ化法の調査（Ⅰ）

### － 洋野町生産者の一事例・仮伏せ時の積算温度 －

#### 1 はじめに

洋野町におけるほだ木 1 本当たりのしいたけ生産量は、県平均（約 20 g）を大幅に上回る 36 g である。（平成 18 年、県の特用林産物統計数値より）

洋野町の実産者によると、この高い生産量は早期ほだ化法によってもたらされていると述べており、この手法は仮伏せ時のハウス利用と被覆による温度管理がポイントとされている。

そこで、この、ハウス利用による早期ほだ化法を行っているしいたけ生産者の協力を得て、植菌後の仮伏せの温度状況を調査したので報告する。

#### 2 方法

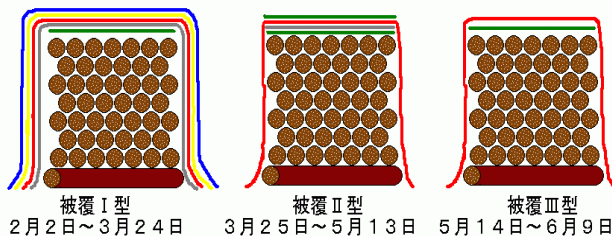
温度計を写真のハウス内 4 カ所及びハウス外 1 カ所の合計 5 カ所に設置し、平成 20 年 2 月 2 日～6 月 9 日の毎正時の気温を測定記録した。仮伏せの被覆管理は生産者に任せた。



写真 温度計の設置位置

#### 3 結果

仮伏せの時期別被覆状況を次に示す。



- ブルーシート
- ポリシャイン（アルミ蒸着したポリエチレンシート）
- ほだ木コート（白色不織布）
- ビニール
- 段ボール

図 1 仮伏せの時期別被覆状況

測定箇所別の有効積算温度を図 2 に示す。

有効積算温度は、日平均気温が 5℃以上の日の「日平均気温－5℃」の積算値である。

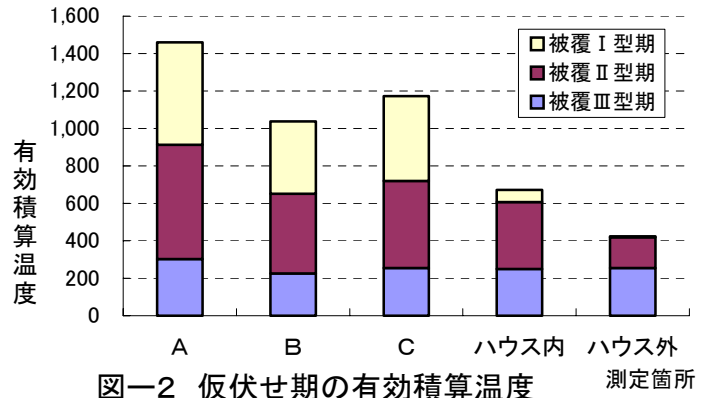


図 2 仮伏せ期の有効積算温度

ハウス内外と比べ、仮伏せ被覆内部の有効積算温度が高く、特に、被覆Ⅰ型期においてその値が大きかった。

次に、測定箇所別の平均気温を図 3 に示す。被覆下部（B、C）より被覆上部（A）の平均気温が高いものの、期間を通じて 7～12℃の平均気温が維持されていた。

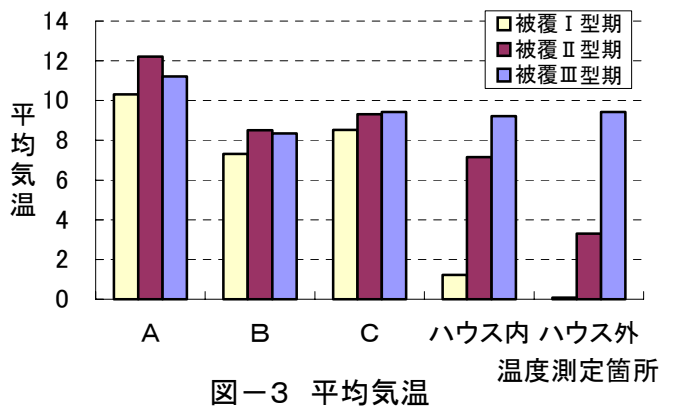


図 3 平均気温

#### 4 考察

時期により被覆方法を変えていくことで、植菌初期の有効積算温度を高くし、全期間を通じて仮伏せ被覆内の温度が安定して保たれていることが確認された。

また、仮伏せの上部と下部で、300～400度程度の有効積算温度の差が見られたことから、菌糸伸長量等にも差が出るのが予想される。

（担当 研究部 主任専門研究員 菅原誠司）